

2004 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 5 年 3 月 1 5 日作成)

委員会名	高齢者居住小委員会	主 査 名：大原一興
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2 0 0 4 年 4 月 ～ 2 0 0 6 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	高齢化の進展する社会において、高齢者のための居住の場は非常に多様化している。次々と新しく施行される施策制度だけではなく、施設から一般住宅まで、また新築から改修まで様々なものがあり、最近はとくに民間の発意による自発的な試みが環境づくりに多くの成果をあげてきている。このような動向を踏まえ、研究の幅広い対象を捉える視点の形成、研究方法の追究を目的とした横断的な研究グループを構成することが必要である。多様化する対象を多様な視点から議論するための研究組織として本委員会を設置するものである。	
委員構成 (委員名 (所属))		
設置 WG (WG 名：目的)	事例検討WG (最近建設された事例の空間と運営についての調査), 論文集刊行WG (高齢者居住に関する論文収集)	
2004 年度予算	501,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会では、高齢者居住に関する横断的な議論を深め先進事例、注目事例の現地踏査、評価等の作成を行う。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>委員会では高齢者居住に関する横断的な議論を深め、先進事例・注目事例の現地調査・検討と評価、高齢者居住に関する研究会の開催、資料集の作成などをおこなってきた。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>2005 年 2 月の研究会に於いて新型特養の条件を満たすように改築・改修をおこなっている施設の実際、実際に施設の改修の現場において経時的に職員に関与し調査をおこなった実例、ケアの方針の転換期における職員の意識の変換、との 3 つの視点からの報告がなされた。コメンテーターからは、現実の施設における職員と居住者との関係に関わる根本的な課題が発せられ、研究の方向性を確認された。</p>

その他評価すべき 事項	
----------------	--